

2) 技術項目理解のための練習問題

【A. 実践に対する理念の明確化】に関する技術項目

1. ビジョン・目標の設定

- | | |
|-----|---|
| (1) | 住民と関わるあらゆる機会を健康づくりのチャンスと考え、潜在している健康問題がないかどうか意識する |
| (2) | 健康問題発生に影響を及ぼしている地域の生活習慣や生活環境といった生活実態を捉え、事業の必要性を意識する |
| (3) | 事業がもたらす成果を描くことで、活動の必要性を意識する |
| (4) | 住民の立場にたって目指すべき姿を明確にする |
| (5) | 先を見通し、事業において大事とする考え方を明確にする |
| (6) | 保健師として取り組むべきことは何なのかを繰り返し問いかけ考えていくことで、目指すべき姿を明確にする |

事例1：介護予防サポーター育成支援事業を立ち上げた高橋保健師の話

(事例1-1)

高橋保健師は健康づくり・介護予防普及啓発事業として介護予防サポーター養成講座を実施した。養成講座修了生にその後どのような活動を行ってもらったらよいのか、何かその後の活動をサポートする働きかけが必要ではないかと高橋保健師は考えた。高橋保健師が気になっていることは、フォローアップ講座として講座修了生に声をかけることはできるが、養成講座の延長になってしまうのではないかということだった。そのため、介護予防サポーター養成講座の修了生から声があがるのを待つようにしたいと思いつつも、このまま待っていていいのか悩んでいた。

【設問 1-1】高橋保健師の立場から

あなたは、上記の6項目のどの項目を意識して、どのような取り組みをしますか？

～回答例：項目(5)を意識して～

そこで、技術項目(5)「先を見通し、事業において大事とする考え方を明確にする」を意識して、介護予防に取り組む地域の様子を考えたところ、介護予防サポーターによって、ボランティアとして活動すると同時に、住民自身が今後、ボランティアをされる側、介護を受ける側になった時にSOSを出せるようにすることが大事なのではないかと思った。そこで、介護予防サポーター養成講座の修了生がボランティアとして何かをするためのフォローアップ教室を開催するのではなく、修了生自身が次に必要な行動を考えられることが大事だと考え、関係者間で活動方針を共有した。

～回答例：項目（1）を意識して～

高橋保健師は、介護予防サポーター養成事業の主担当であるが、同時に地区担当保健師としてZ地区を受け持っていた。Z地区の民生委員から、高齢者の一人暮らしの人が外出する機会がないために、足腰が弱っているとの相談をたびたび受けていた。高橋保健師は、技術項目（1）「住民と関わるあらゆる機会を健康づくりのチャンスと考え、潜在している健康問題がないかどうか意識する」ことを意識し、Z地区の民生委員との関わりも介護予防につながる重要な活動と思って、話を聞き、高齢者が出かける場が必要であることを認識した。足腰が弱って動けなくなったら、介護保険サービスを受けて訪問介護サービスやデイサービス等を受けるが、その前の段階での介護予防サービスが大事だと思った。

～回答例：項目（3）を意識して～

介護予防サポーター育成支援事業の目的は、住民主体の活動の意識付けをすることである。高橋保健師は、養成講座の延長により、行政主体にならないようにしないといけないと感じていた。

そこで、技術項目（3）「事業がもたらす成果を描くことで、活動の必要性を意識する」ことを意識し、高橋保健師は、介護予防サポーター養成講座の修了生が意見を出し合って活動することにより、活動そのものが住民参加型になって、なおかつ介護予防サポーターが負担を感じることなく継続できると考えた。そのため、介護予防サポーター養成講座の修了生から声があがるのを待つという活動方針を関係者間で合意するようにした。

（事例1-2）

高橋保健師の上司（保健師）は、高橋保健師から、「フォローアップ講座として介護予防サポーター講座修了生に声をかけることはできるが、養成講座の延長になってしまうのではないかと心配している。そのため、養成講座の修了生から声があがるのを待つようにしたいと思いながらも、このまま待っていていいのか悩んでいる」との話を聞いた。

高橋保健師が一人で悩んでいる様子を感じた上司は、高橋保健師と養成講座の副担当保健師に、「養成講座は修了したけど、今後の取り組みや次年度以降にむけた計画はどのようになっていますか？」とたずねた。高橋保健師からは「養成講座修了生から声があがるまで待っていていいのか悩んでいる」との発言があったが、副担当保健師からは、「養成講座が修了したばかりなので、もう少ししたら、高橋保健師と相談しようと思っていた」との発言があった。

【設問 1-2】 上司の立場から

高橋保健師の上司として、上記の6項目のどの項目を意識して、高橋保健師を含む職場にどのように働きかけますか？

～回答例：項目（4）を意識して～

上司は、技術項目（4）「住民の立場にたって目指すべき姿を明確にする」ことを意識し、高橋保健師と養成講座の副担当保健師に「介護予防サポーター養成講座の参加者の人たちはどのように考えているのかしら？」と問いかけたところ、高橋保健師からは、「養成講座の参加者の方々は、講座を修了して間もないのでそこまで考えていないかもしれない。また、こちらからフォローアップ講座の話をする、それじゃあ、お願いしますと言われてしまう気がする」と回答があった。高橋保健師の上司は、心の中で（フォローアップ講座に対する要望があるかどうかではないのだけど、高橋保健師に、参加者が主体となって活動の方向性を決めることに気づいてもらうにはどう声をかけようか）と思い、「参加者の人たちがあなたの悩んでいる、養成講座の延長線上ではない主体的な活動になるといいのではないかと思います。思いに対して、参加者の人たちがどのように思っているかを聞いてみたのかしら」と問いかけた。

～回答例：項目（6）を意識して～

上司は、技術項目（6）「保健師として取り組むべきことは何なのかを繰り返し問いかけ考えていくことで、目指すべき姿を明確にする」ことを意識し、高橋保健師と養成講座副担当保健師に、「今、保健師として取り組むことはどのようなことですか？」と問いかけた。高橋保健師からは、「講座の修了生が活躍できること」と返事があったので、さらに「講座の修了生に、どのような活躍を期待していますか？」とたずねた。すると、副担当保健師から、「講座の修了生が主体的に活動できるようになって、介護予防に積極的に取り組めるようになること」との返事があった。高橋保健師の上司は、「介護予防に取り組む人々が増えることが大事ということかしら。そのために、講座修了生自身は、どんなことなら自分たちに出来そうだと思うのかしら・・・」と問いかけた。

（事例1-3）

介護予防サポーター育成支援事業担当の前任者で高橋保健師の先輩保健師は、高橋保健師が介護予防サポーター養成講座の主担当者として、準備段階から熱心に計画をたてて取り組んでいる姿をみていました。高橋保健師は先輩保健師に養成講座の様子について、細かいことなどをいろいろ相談していました。ところが、養成講座が修了してからは、ぱったりと養成講座に関する話をしなくなりました。先輩保健師としては、養成講座が修了したら、事業は終わりということでもいいのかなあと気になっています。ある日、高橋保健師の上司が、高橋保健師と養成講座の副担当保健師に話をしている様子を見て、・・・

【設問 1-3】 同僚の立場から

介護予防サポーター育成支援事業担当の前任者で高橋保健師の先輩保健師として、上記の6項目のどの項目を意識して、高橋保健師にどのように関わりますか？

～回答例：項目（2）を意識して～

先輩保健師は、養成講座の主担当である高橋保健師の日々の活動で忙しい様子を見ながら、あえて、養成講座について話を聞くこともないと思っていたが、このまま修了でいいのか気になっていた。そこで、技術項目（2）「健康問題発生に影響を及ぼしている地域の生活習慣や生活環境といった生活実態を捉え、事業の必要性を意識する」を意識し、高齢化率が高く、過疎化の進んでいる本市において、高齢者はサービスの受け手であると同時に、サービスの提供者でもあると考えた。健康寿命の延伸にむけ、保健事業を円滑に行うためには一人ひとりが、自ら“生きがいづくり”や“健康づくり”を見つけ出し、取り組むことが大事である。そのため、介護予防サポーター養成講座は、自身が介護予防に対する知識を身につけて、ボランティアとして活動を推進する体制づくりの一步として大事であると先輩保健師は意識した。そのため、高橋保健師に対して、養成講座は本市にとって必要な事業であり、今後の取り組みについてもぜひ一緒に考えたいと伝えた。